

WHO news January 2025

2025年1月6日

[Milestone: COVID-19 five years ago](#)

All along, we convened experts and ministries of health from around the world, gathered and analysed data, and shared what was reported, what we learned and what it meant for people. Read about WHO's actions in this [interactive timeline](#).

マイルストーン：5年前の COVID-19

5年前の2019年12月31日、WHO 中国事務所は、中国・武漢市のウェブサイトに掲載されていた武漢市衛生委員会による「ウイルス性肺炎」の症例に関するメディア声明を拾い上げました。

WHO では、新年が明けるや否や、ただちに活動を開始しました。WHO の職員は2020年1月1日に緊急体制を発動し、1月4日には世界に向けて情報を発信しました。1月9日から12日にかけて、WHO は各国向けの包括的なガイダンスの第一弾を公表し、1月13日にはパートナーを集めて、SARS-CoV-2 の最初のラポテストの青写真を公表しました

私たちは、常に世界中の専門家や保健省を集め、データを収集・分析し、報告されたこと、学んだこと、それが人々にとって何を意味するのかを共有してきました。WHO の対応については、この[インタラクティブなタイムライン](#)をご覧ください。

この節目を迎えるにあたり、私たちは、人生が変わったり失われたりした人々を称え、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) や Long COVID-19 の影響で苦しむ人々を認識し、私たちをケアするために多くの犠牲を払った医療従事者たちに感謝の意を表し、そして、より健康的な明日を築くために、COVID-19 から学ぶことを誓いましょう。

私たちは引き続き、中国に対して、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の起源を理解できるよう、データの共有とアクセスを要請していきます。これは道徳的にも科学的にも必須のことです。各国間の透明性、共有、協力がなければ、世界は将来の流行病やパンデミックを十分に予防し、備えることができません。

2025年1月6日

[Kamal Adwan Hospital out of service following a raid yesterday and repeated attacks since October](#)

WHO is appalled by yesterday's raid on Kamal Adwan Hospital, which put the last major health facility in North Gaza out of service. The systematic dismantling of the health system and a siege for over 80 days on North Gaza puts the lives of the 75,000 Palestinians remaining in the area at risk.

ガザ北部のカマル・アドワン病院、閉鎖

WHO は、27日のカマル・アドワン病院への襲撃に憤りを感じています。この襲撃により、ガザ北

部の最後の主要な保健医療施設が使用不可能となりました。 ガザ北部に対する 80 日間にわたる包囲と、保健医療システムの組織的な解体により、この地域に残る 7 万 5 千人のパレスチナ人の生命が危険にさらされています。

大半のスタッフ、入院患者、付き添いは、近くの場所に移動しました。 さらに、一部の人々は服を剥ぎ取られ、ガザ南部に向かって歩かされたと報告されています。 この 2 か月間、病院周辺は非常に不安定な状態が続いており、病院や医療従事者に対する攻撃はほぼ毎日発生しています。 今週、病院付近への爆撃により、カマル・アドワン病院の医療従事者 5 人を含む 50 人が死亡したと報告されています。

WHO とパートナーによる病院運営の維持に向けた努力は水の泡となりました。 カマル・アドワン病院とインドネシアの病院は完全に機能停止し、アル・アウダ病院はかろうじて機能しているものの、先日の空爆により深刻な被害を受けているため、ガザ北部の人々にとっての医療の生命線は限界に達しつつあります。

2023 年 10 月以来、WHO は国際人道法に従って医療従事者と病院を保護するよう繰り返し緊急の呼びかけを行っていますが、こうした呼びかけは無視されたままです。 保健医療施設、医療従事者、患者は常に立ち入り禁止区域です。 それらは積極的に保護されなければならず、攻撃されることも、軍事目的で利用されることもあってはなりません。 国際人道法に基づく予防、区別、均衡の原則は絶対的なものであり、常に適用されます。

2025 年 1 月 6 日

[WHO looks back at 2024](#)

Each year WHO takes stock of key moments in health and science over the past 12 months.

Here is our review of a very complex 2024. Here's to a healthier, more peaceful 2025!

WHO、2024 年を振り返る

毎年、WHO は過去 12 か月の健康と科学における重要な出来事を振り返ります。 2024 年の総括は以下の通りです。

1) 世界から疾病を撲滅

- 7 カ国 (ブラジル、チャド、インド、ヨルダン、パキスタン、東ティモール、ベトナム) が、アフリカ睡眠病、ハンセン病、リンパ系フィラリア症、トラコーマなどの顧みられない熱帯病を撲滅
- エジプトは、1 世紀にわたる闘病の末にマラリアフリーとなり、カーボベルデもマラリアフリー国に
- アメリカ地域を麻疹無発生地域として再確認。
- ベリーズ、ジャマイカ、セントビンセントおよびグレナディーン諸島では、HIV および梅毒の母子感染が根絶され、ナミビアでは、HIV および B 型肝炎の母子感染根絶に向けた重要な節目を迎えました。

2) 非感染性疾患とメンタルヘルスの負担に取り組む

- 「世界におけるたばこ使用の動向に関する報告書 2000 - 2030」を公表
- 新しいデータによると、世界中で約 18 億人の成人が、不十分な身体活動の結果、心臓病、2 型糖尿病、一部のがんなどの深刻な疾患を発症するリスクにさらされています。
- 「アルコールと健康に関する世界状況報告書」および「物質使用障害の治療」を公表
- 史上初の「世界溺水状況報告書」が発表
- 神経疾患は世界で最も多い病気と障害の原因となっており、3 人に 1 人以上がこれらの疾患(片頭痛、脳卒中、認知症など)に罹患
- 『世界の食料安全保障と栄養状態 2024』
- 新たなデータでは、過去 30 年間に糖尿病が急増
- 2025 年には、史上初の「健康の商業的要因に関するグローバル報告書」が発行予定
- 2025 年には 第 4 回 国連総会非感染性疾患予防と管理に関するハイレベル会合が開催される予定

3) 行動を提唱

世界のリーダーたちは、今日私たちが直面する最も差し迫ったグローバルヘルスの脅威のひとつである AMR (薬剤耐性) に対処するための主要宣言に合意しました。主な公約は、2030 年までに薬剤耐性菌による世界的な死亡者数を 10 % 削減することです。

WHO 加盟国は、2024 年の世界保健総会で主要決議を採択しました。

- 気候変動がもたらす深刻な健康リスクに立ち向かうための断固とした対策の緊急の必要性を強調する決議案、
- 人々の健康とウェルビーイングに影響を与える決定に人々が意見を述べられるようにし、保健システムへの信頼を醸成するための取り組みを強調する社会参加に関する決議案、
- 経済、社会、環境の各側面における行動の整合性を図り、自国の経済が自国民の健康に貢献することを各国に求める決議案。

4) 命を救う記念日を祝して

- 拡大予防接種計画 (EPI) 50 周年
1974 年に EPI が発足して以来、世界的な予防接種活動により、推定 1 億 5400 万人の命が救われました。これは、毎分毎秒、1 年 365 日、1 人あたり 6 人の命に相当します。
- 2024 年には、17 カ国でマラリアワクチンが導入され、WHO の HPV ワクチン単回投与スケジュールにより、より多くの少女が子宮頸がんから守られるようになりました。
- また、新しい髄膜炎ワクチンは、髄膜炎菌の 5 つの主要な菌株に対して、1 回の接種で強力な防御効果を発揮します。

5) グローバルヘルスの安全保障強化

- 加盟国は、国際保健規則（2005）（IHR）の改正パッケージに関する交渉を成功裏に終結させ、世界的なパンデミック協定に関する交渉を完了させる具体的な約束をしました。
- WHO は 2024 年を通して、ガザ地区からスーダン、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態である Mpox まで、数多くの健康上の緊急事態に対応。
- 進行中の健康危機に関する概要は、WHO 健康緊急アピール 2025 の一部として、今後数週間のうちに発表される予定。

6) 世界の保健機関の変革

1. すべての人々の健康な未来への投資
2024 年に WHO は初の投資ラウンドを実施し、2025 年から 2028 年までの 第 14 次 WHO 総合事業計画（GPW 14）の予測可能で柔軟かつ弾力性のある資金調達を確保。
2. リヨンの WHO アカデミー開設
3. 国別事務所の能力を強化-
4. 誤報や偽情報との闘い

2025 年 1 月 14 日

[WHO prequalifies diagnostic test to support safer administration of P. vivax malaria treatments](#)

On 18 December 2024, the World Health Organization (WHO) prequalified the first diagnostic test for glucose-6-phosphate dehydrogenase (G6PD) deficiency which can help to safely deliver WHO-recommended treatments to prevent relapse of Plasmodium vivax (P. vivax) infection.

WHO、三日熱マラリア治療の診断検査を事前認証

三日熱マラリアは、ヨーロッパ地域を除くすべての WHO 地域で流行しており、2023 年には 920 万例の臨床例が発生すると推定されています。

12 月 18 日、世界保健機関 (WHO) は、三日熱マラリア原虫 (Plasmodium vivax ; P. vivax) 感染症の再発を防ぐために WHO が推奨する治療を安全に実施するのに役立つ、グルコース-6-リン酸脱水素酵素 (G6PD) 欠損症の初の診断検査を事前認証しました。この検査の事前認証は、P. vivax マラリアの再発防止治療薬である 2 つの新しいタフェノキシシン (tafenoquine) 製品の事前認証 (12 月初旬) に続いて認証されたもので、これらは 11 月下旬に発表された更新版の WHO マラリアガイドラインで推奨されています。この G6PD 診断テストの事前認証は、安全で効果的な P. vivax マラリア治療を促進する上で重要なマイルストーンであり、世界中で救命医療ソリューションへの公平なアクセスを確保するという WHO の取り組みを再確認するものです。

マラリアの治療と再発防止とに大きく関わる遺伝性疾患の G6PD 欠損症は、5 億人以上の人々に影響を与えています。ほとんどの人は悪影響を受けることなく生活していますが「P. vivax によるマラリ

ア再発を予防するために投与される特定の薬品が、「急性溶血症を引き起こす可能性」があります。これまでは信頼性の高い G6PD 検査が利用できないため、再発防止治療を安全に提供することが難しく、この効果的な治療法の普及が制限されてきました。この情報 G6PD 検査に基づき、P. vivax の再発防止治療として低用量および高用量のプリマキン、またはタフェノキンの単回投与など、どの治療法が最も適切かを決定することができるようになりました。

2025 年 1 月 14 日

[Framework for health in the humanitarian-development-peace nexus in Africa](#)

The aim of this framework is to guide countries in integrating and prioritizing health across humanitarian, development and peacebuilding efforts. It will support governments towards harmonization, complementarity and synergy of the efforts of Humanitarian-Development-Peace Nexus (HDPN) partners (including donors and implementing agencies) relevant to health and will guide WHO in providing strategic and operational support to ministries of health.

アフリカにおける人道・開発・平和の連携における健康の枠組み

近年、世界は武装紛争、災害、感染症の流行やパンデミックの急増にますます直面するようになってきました。こうした危機に直接的に影響を受けた何百万人もの人々にとって、生存は日々の生活の中心的な関心事となっています。特にアフリカと中東の地域は、これらの課題の矢面に立たされており、その人口は不均衡な影響を受けています。

第 15 回 アフリカ連合 (AU) 臨時人道サミットおよび誓約会議のマラボ宣言 (2022 年) では、アフリカが人道危機の根本原因に対処し、持続可能な解決策を開発する必要性が強調されました。これなしには、アフリカ大陸の社会経済的変革と統合は危機にさらされます。さらに、アフリカ諸国およびその他の国々における公衆衛生および人道上の緊急事態に対する安定性と回復力は、2030 年までに持続可能な開発目標 (SDGs) とユニバーサルヘルスカバレッジを達成し、健康安全保障を実現し、国家開発計画と国家保健セクター計画を成功裏に実施するために不可欠です。

WHO は、人道支援、開発、平和の連携 (HDPN ; Humanitarian-Development-Peace Nexus) における健康の戦略的配置に関するアフリカ連合の政策と足並みを揃えています。WHO は、HDPN アプローチのより広範な採用に不可欠な、この HDPN における健康のための専用フレームワークを策定しました。

このフレームワークは、政策立案とガバナンス、計画と部門間調整、予算編成と資金調達、統合されたサービスの提供、強固なモニタリングと情報管理を見直し、強化することで、健康を HDPN に統合するための包括的なロードマップを提供します。また、アフリカ全土の HDPN における健康に関わる主要なステークホルダーと、その一般的な役割を概説しています。さらに、この枠組みは、HDPN における健康を優先事項として主流化するための実行可能な提言を提供しており、アフリカ諸国および世界中の類似した状況における人道支援の文脈において、予測可能かつ適応可能なものとなることを保証しています。

2025年1月14日

[WHO's Health Emergency Appeal 2025](#)

WHO の健康緊急アピール 2025 (1月16日)

世界は今、転換期にあります。紛争、気候変動、感染症、そして難民が重なり合い、かつてないグローバルヘルスの危機が生み出され、世界中で3億500万人の人々が緊急に人道支援を必要としています。これは、世界中の地域社会や医療システムに絶え間なく圧力がかかっていることを示す、驚くべき現実です。

2025年1月16日(15:00 - 16:00 中央ヨーロッパ時間)、WHOは2025年の健康緊急アピールを開始し、WHOのソーシャルメディアチャンネル(Facebook、Instagram、Xなど)からライブ配信されます。このアピール(HEA)では、最も深刻なレベル3の危機17件を含む、現在進行中の42件の健康危機への対応に必要な重要な優先事項とリソースを特定しており、崩壊寸前の地域社会の人命を救い、健康を守り、希望を取り戻すために、調整された十分なリソースによるグローバルな対応が求められます。

健康は、あらゆる緊急対応の中心にあり、WHOは救命ケアや必須医薬品の提供から、疾病監視の実施や現地の医療システムの支援に至るまで、最も困難な状況下にある最も弱い立場の人々の命を守るための取り組みを主導しています。しかし、ニーズが高まるにつれ、リソースと現実のギャップは広がり続けています。健康が脅かされるとき、すべてが脅かされます。

WHOの「2025年健康緊急事態アピール」の高官級発表会に参加し、私たちの対応の優先事項について学び、救命医療介入を緊急事態にある地域社会に届けるために尽力している寄付者、パートナー、スタッフの生の声を聞いてください。

これらは行動を促す呼びかけです。力を合わせれば、命を救い、健康に対する普遍的な権利を守り、誰も取り残されないことを保証する国際人道法の原則を再確認することができます。

2025年1月14日

[Trends of acute respiratory infection, including human metapneumovirus, in the Northern Hemisphere](#)

In many countries of the Northern Hemisphere, trends in acute respiratory infections increase at this time of year. These increases are typically caused by seasonal epidemics of respiratory pathogens such as seasonal influenza, respiratory syncytial virus (RSV), and other common respiratory viruses, including human metapneumovirus (hMPV), as well as mycoplasma pneumoniae.

北半球における、ヒト・メタニューモウイルスによる急性呼吸器感染症の動向

最近、中国におけるヒトメタニューモウイルス(hMPV; human metapneumovirus)の症例が注目を集めており、病院がパンク状態にあるという指摘もなされています。

hMPV は、多くの国々で冬から春にかけて流行する一般的な呼吸器ウイルスですが、すべての国で hMPV の流行に関するデータを定期的に検査し、公表しているわけではありません。hMPV による気管支炎や肺炎で入院する症例もありますが、大半の患者は風邪に似た軽度の呼吸器症状のみで、数日で回復します。北半球で、この冬期に予想される呼吸器病原体の検出数の増加は、予測範囲内です。現在のリスク評価に基づき、WHO は急性呼吸器感染症の現在の傾向に関連する旅行や貿易の制限を勧告していません。

WHO は、各国の状況、優先事項、リソース、能力を考慮した統合的なアプローチにより、呼吸器病原体の監視を維持するよう加盟国に推奨しています。

2025 年 1 月 20 日

[WHO launches US\\$ 1.5 billion Health Emergency Appeal to tackle unprecedented global health crises](#)

Conflict, climate change, epidemics, and displacement are converging to create an unparalleled global health crisis, with 305 million people in urgent need of humanitarian assistance in 2025. In response, the World Health Organization (WHO) is calling for US\$ 1.5 billion for its [2025 Health Emergency Appeal \(HEA\)](#), to support life-saving health interventions worldwide.

WHO、前例のない健康危機の対処に 15 億ドル拠出を要請

紛争、気候変動、感染症、そして避難民の発生が重なり合い、2025 年には 3 億 500 万人の人々が緊急の人的支援を必要とするという、かつてないグローバルヘルスの危機が生み出されています。これを受けて、世界保健機関 (WHO) は、世界中で救命医療介入を支援するために、[2025 年健康緊急アピール \(HEA\)](#) として 15 億米ドルの拠出を呼びかけており、緊急に対応が深刻な 17 の危機を含む、42 の健康上の緊急事態に対処するために必要かつ重要な優先事項とリソースが概説されています。

このアピールは、資金調達だけを目的としていたものではありません。行動を呼びかけるもので、危機がますます頻繁に深刻化するにつれ、世界的なニーズと利用可能なリソースのギャップは広がり続けています。

WHO の健康緊急アピールを支援することは、グローバルな連帯と健康の衡平性への重要な投資であり、WHO は、ドナーやパートナーの支援を受けながら、国際人道法の原則を遵守し、最も困難な状況下でも誰一人取り残されることのないよう、健康上の緊急事態における独自の役割を果たすことを目指しています。

2025 年 1 月 20 日

[The ceasefire in Gaza brings hope, but immense challenges lie ahead to restore the health system](#)

WHO calls on all parties to uphold their commitment to fully implement the ceasefire agreement and to continue working towards a political solution to address the protracted crisis in the occupied

Palestinian territory, which is essential for lasting peace.

ガザの停戦：希望はもたすが、保健システムの回復には大きな課題

世界保健機関 (WHO) は、ガザ停戦、人質解放、囚人解放の合意を歓迎します。

ガザ地区の全住民は、複数の避難を余儀なくされています。46,600人以上が死亡し、11万人以上が負傷しましたが、実際の数字は、さらに多いと見られ、負傷者の25%にあたる約3万人は、生活を一変させるような負傷を負っており、継続的なリハビリテーションが必要とされています。

医療機関は36の病院のうち、部分的に稼働しているのは半分だけで、ほぼすべての病院が損傷または一部破壊されており、プライマリーヘルスケアセンターの38%だけが機能しています。専門的なヘルスケアはほとんど利用できず、海外への医療搬送も極めて遅れています。感染症の蔓延が大幅に増加し、栄養不良も深刻化しており、飢饉のリスクも依然として残っています。

膨大なニーズへの対応と医療システムの復旧は、破壊の規模、業務の複雑さ、制約を考慮すると、きわめて複雑で困難な作業で、医療システムの復旧を支援するには数十億ドルの投資が必要であり、そのためにはドナーや国際社会の揺るぎないコミットメントが求められます。

WHOは、UNFPA (国連人口基金)、UNICEF (ユニセフ)、UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) および67の健康クラスターパートナーを含む国連の健康パートナーとともに、対応を拡大する準備を行うとともに、すべての当事者に対し、停戦合意を完全に履行するという公約を守り、占領下にあるパレスチナ領土における長引く危機に対処するための政治的解決に向けて引き続き取り組むよう呼びかけています。

2025年1月20日

[Health equity for persons with disabilities: guide for action: executive summary](#)

An estimated 1.3 billion people globally experience significant disability. This figure has grown over the last decade and will continue to rise due to demographic and epidemiological changes.

障害者の健康における公平性：行動のためのガイド：要約

WHO から2022年12月に発表された「障害者の健康公平性に関するグローバルレポート」では、障害者が引き続き健康上の不公平を経験していることが示されており、世界人口の16% (約13億人) が重度の障害を抱えており、非感染性疾患の増加、寿命の伸長、機能障害を伴う高齢化により、その割合は増加傾向にあると推定しています。

障害者は、より早く死亡する可能性が高く、健康状態が悪く、機能制限が大きい傾向にあり、彼らが直面する健康格差は、回避可能な不当かつ不公平な状況の結果であり、その要因には、スティグマや差別などの構造的要因、貧困や教育不足などの社会的決定要因、喫煙、アルコールや薬物の使用、不健康な食生活などの疾病リスク要因、そして、健康システムのあらゆるレベルで直面する態度、制度、物理的な障壁などがあります。

『障害者の健康公平性：行動のためのガイド (行動のための障害者包摂ガイド)』は、保健システムのガバナンス、計画、モニタリングに障害者包摂を統合するプロセスについて、保健省に実践的な指針を提供し、グローバルレポートに記載されている行動や提言を実施する際に、保健省やパートナーにと

って基礎的なリソースとなり、持続可能な開発目標 (SDGs) 、障害者の権利に関する条約、世界保健総会決議 74.8 に概説されているように、加盟国が「誰ひとり取り残さない」という公約を達成し、すべての人々が達成可能な最高水準の健康を実現できるように支援します。

このクイックガイドでは、障害者対応ガイドの行動プロセスを実施する際に必要となる主要な概念、方法論、および実施手順の概要を説明していますが、詳細なガイダンス、実践例、ツール、リソースへのリンクを含む完全なツールキットは、[障害者対応ガイドの行動ウェブサイト](#)から入手できます。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>